



独立美術協会会員、日本藝術院会員、文化功労者。具象絵画界を代表する洋画家・奥谷博。強烈で鮮やかな色遣い、繊細なフォルム、独特な構図、そして緻密さ……。観る者を魅了してやまない奥谷作品。異彩を放つその油彩画の根底にはいったい何があるのか？

『美術屋・百兵衛』編集部がアトリエを訪れ、作品の変遷、そして60年以上歩んで来た画業について画家本人に話を聞いた。

気が付けば
一日中絵具を手に
絵を描いていた幼少時代。

——奥谷さんは生まれてから高校を卒業するまで高知県で過ごされていますが、画家としての人生に故郷はどれほど影響しているとお考えでしょうか？

奥谷 「僕が住んでいた宿毛はすごく田舎でね、同じ高知県なのに高知市内まですごく遠かったんです。絵具を買いつのにバスに揺られながら隣町まで3時間もかかるんですよ。だから本格的に

高知の眩しい光。それが力強い色彩の根源。

奥谷博

絵を描く人はいなかったですね」
——そんな環境の中で、奥谷さんはどうして絵に興味を持たれるようになったのでしょうか？

奥谷 「好きだったのですね。物心ついた頃から絵を描いてました。一日中描



東京藝術大学に入る前の模写。(15歳)